SONY

3-093-227-**08**(1)

シアタースタンド
システム

本機には次の2つの説明書があります。

- **取扱説明書（本書）**
  接続方法と設置の仕方、操作方法について説明しています。
- BRAVIA Linkガイド
  BRAVIA Linkの操作と設定について説明しています。

RHT-G800
RHT-G1200

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

（RHT-G1200 のみ）

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

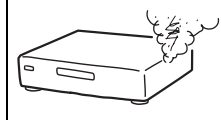
4 ～ 8 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。9 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

❶ 電源を切る

❷ 電源プラグをコンセントから抜く

❸ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

接続と準備

再生

設定

その他

火災　感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機を水滴のかかる場所に置かないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

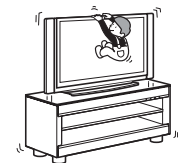
雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

スタンドにテレビを載せた状態で、ぶら下がらない

スタンドが転倒したり、テレビが落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。

テレビや接続機器を設置したままスタンドを動かさない

禁止

スタンドを動かすときは、必ずテレビや接続機器をはずしてください。
テレビや接続機器を載せたままスタンドを移動させると、バランスを失いスタンドが倒れ、大けがの原因となります。

テレビとスタンドの間に電源コードおよび接続ケーブルをはさまないようにする

禁止

- 電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。
- スタンドを動かすときは、電源コードおよび接続ケーブルがスタンドの下にからまないようにしてください。
  電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。

スタンドの上に乗らない

スタンド天板の前面カバーがはずれてけがの原因となることがあります。

移動の際、底面を持たない。

禁止

本機を移動する際、図のように底面を持つと部品がはずれて落下するおそれがあります。上棚の下側をお持ちください。

⚠注意

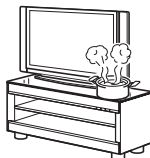
下記の注意事項を守らないと けが をしたり周辺の 家財 に 損害 を与えたりすることがあります。

加熱した鍋、湯沸しなど熱いものを置かない

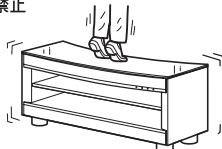
禁止

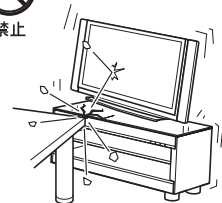
ガラス天板が割れたりして、けがの原因となることがあります。また、スタンドを傷める原因となります。

踏み台にしない

禁止

- 倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

ガラス天板に強い衝撃を与えない

禁止

このスタンドには強化処理を施したガラスを天板に使用していますが、絶対に割れないわけではありません。割れると、破片が飛び散りけがの原因となりますので下記のことをお守りください。

- 物をぶつける、先端の尖った物を落とすなど、強い衝撃を与えないでください。
- 鋭利な物で傷をつけたり、ガラス天板を突いたりしないでください。
- 収納機器を設置するときに、ガラス天板の端面にぶつけないでください。

ガラス天板に力をかけない

収納機器を設置するときに、ガラス天板に手をついて体重をかけたり、ドライバーなど硬いものを落としたりしないでください。ガラス天板が割れて、けがの原因となることがあります。

ヒビの入ったガラス天板は使わない。

ガラス天板にヒビが入っていた場合は、使用しないでください。ガラス天板が割れて、けがの原因になることがあります。

指定機器以外のものを取り付けない

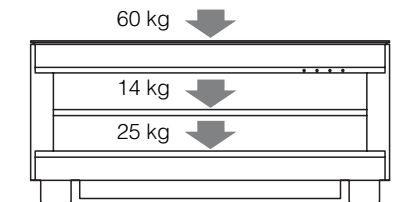
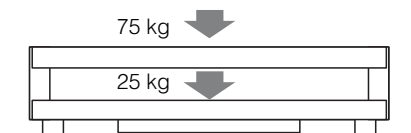
- 指定の機器以外のもの（陶器や花瓶など）は置かないでください。
- このスタンドを改造しないでください。

テレビを固定する

固定しないと、テレビが落下したり、スタンドが転倒してけがの原因となることがあります。お手持ちのテレビの取扱説明書にしたがい、テレビを固定してください。

総積載量についてのご注意

下の図に示す質量以上のものを載せないでください。指定の質量を超えると、天板や底板が壊れることがあります。

RHT-G800

RHT-G1200

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

幼児の手の届かない場所に置く

指をはさまれるなど、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

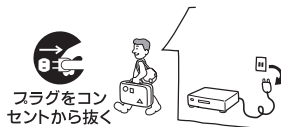
電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

設置上のご注意

- テレビを取り付けるときには、手や指をテレビとスタンドの間にはさんで傷つけないようにご注意ください。
- 設置場所によってはスタンドの変形や傾きが生じることがありますので下記のことをお守りください。

➡ 堅くて平坦な床面に設置する
➡ 畳、じゅうたん、カーペットなどの上に置く場合は板など堅い物を敷く
➡ 直射日光が当たる場所や、暖房器具のそばに置かない
➡ 高温多湿の場所や屋外に置かない

- スタンドを動かすときは、テレビや接続機器をはずしてから、必ず 2 人以上で運んでください。テレビが落下して大けがの原因となります。移動の際には指をはさまれないようご注意ください。また、スタンドのスピーカーネットを持たないでください。スピーカーネットがはずれて落下するなどして、けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

- 熱いものをスタンドに置かないでください。熱により変色、変形することがあります。
- 美しい状態でお使いいただくため、お手入れをする際には、やわらかい布で、軽くから拭きしてください。汚れがひどいときは食器用洗剤を 5 ～ 6 倍に薄め、やわらかい布に含ませて軽く拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの化学薬品はスタンドの仕上げを傷めることがありますので、使わないでください。
- スタンドの足に砂やゴミなどが入り込んだ場合、床を傷つけることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

指示

- ➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- ➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

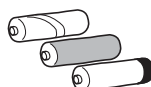
- ➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

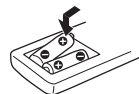
- ➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

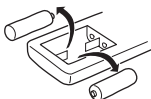
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

- ➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本体背面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本体背面の通気孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやガラス天板の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

商標について

本機はドルビー *1デジタルデコーダーおよびドルビープロロジックIIアダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*2デコーダーを搭載しています。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国AACパテントナンバーです。
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400,433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

*2 DTS, Inc.からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc.の商標です。

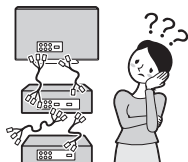
HDMI、HDMI ロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

取扱説明書について

この取扱説明書 では、RHT-G800と RHT-G1200について説明をしています。

- 本体のイラストは、特に断りがない限り、RHT-G800 を使用しています。
- RHT-G800と RHT-G1200で異なる点については、各説明箇所で明記しています。

本機の特長

▶HDMIでかんたん接続

たくさんのコードでうんざり…

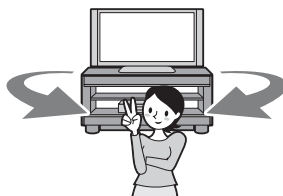
すっきり接続！（14ページ）

▶かんたん操作

どのリモコンだっけ？

これ、ひとつ！（32ページ）

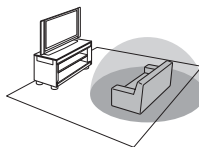
▶かんたんサラウンド

スピーカーとコードがたくさん必要…

かんたんに、S-Force PRO Front Surroundが楽しめちゃう！（29ページ）

S-Force PRO Front Surroundとは

ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術です。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができます。

サラウンドサウンドエリア（推奨）

下図のようにフロントサラウンドエリア内で、より効果的なサラウンドを楽しめます。

付属品を確かめる

本機には以下の付属品が同梱されています。

光デジタルコード（1 m）（1）

リモコン（1）

乾電池（2）

ガラス天板（1）（RHT-G800のみ）

棚板（1）（RHT-G800のみ）

棚板取り付け用ピン（4）（RHT-G800のみ）

コーナープロテクター（4）（RHT-G800のみ）

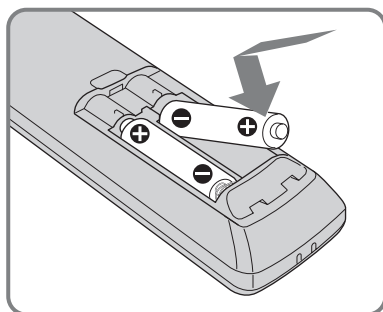
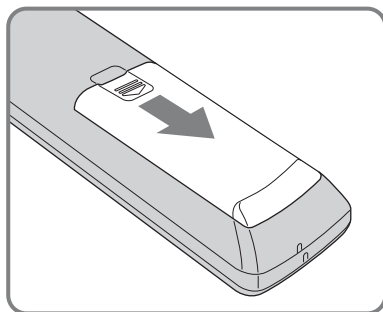
取扱説明書（本書）（1）

BRAVIA Linkガイド（1）

保証書（1）

ソニーご相談窓口のご案内（1）

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。＋と－の向きを合わせて、単3乾電池（R06、付属）2個を入れてください。

ご注意

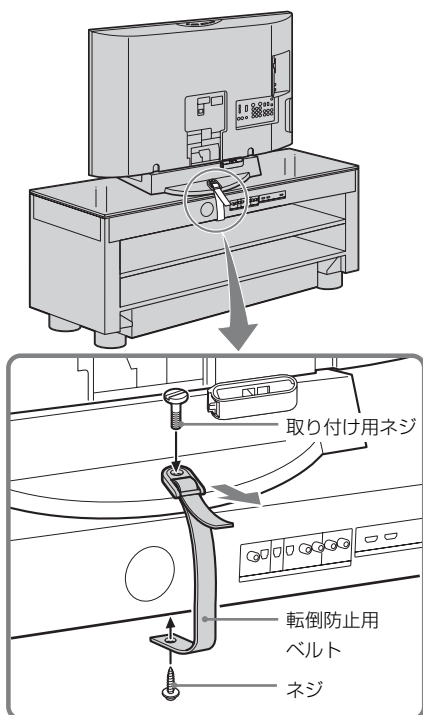
- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

本機を設置する

ガラス天板を載せる

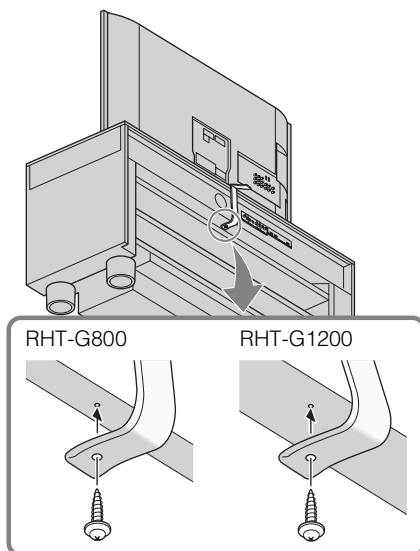
（RHT-G800のみ）
詳細は別紙の「ガラス天板の設置方法」をご覧ください。

テレビに転倒防止の措置をする

テレビが転倒することを防ぐため、必ず転倒防止の措置をしてください。ソニー製液晶テレビをお持ちの方は、下記の手順で転倒防止の措置をしてください。

1 テレビをスタンドの中央に載せる。

テレビがスタンドの表示部を隠さないように乗せてください。

2 転倒防止用ベルト*をネジ*で固定する。

図のように、ネジは下穴に合わせ、上向きに締めます。

3 転倒防止用ベルト*の長さを調節し、コインやドライバーなどを使って取り付け用ネジ*でしっかり留める。

4 テレビを固定し、転倒防止用ベルトをしっかりと締める。

* 転倒防止用ベルト、取り付け用ネジはテレビに付属されています。

棚板を取り付ける

（RHT-G800のみ）

1 棚板取り付け用ピン（付属）を側板に取り付ける。

棚板の取り付け位置は3段階の調整が可能です。

2 2人以上で棚板をピンの上に水平に差し込む。

ご注意

- 設置の際に、手を挟まないよう気をつけてください。

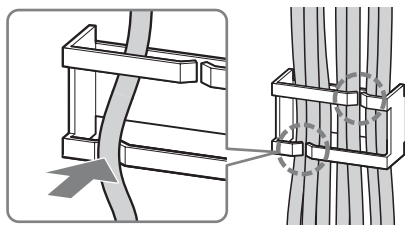
ケーブルをまとめる

1 スタンドに他機器を接続する。

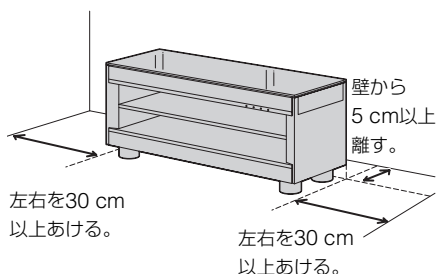
他機器接続の詳細は14～22ページをご覧ください。

2 コードをコードマネージメントに差し込む。

下図のようにコードをコードマネージメントに押し込んでください。

ご注意

- 設置の際に、手を挟まないよう気をつけてください。

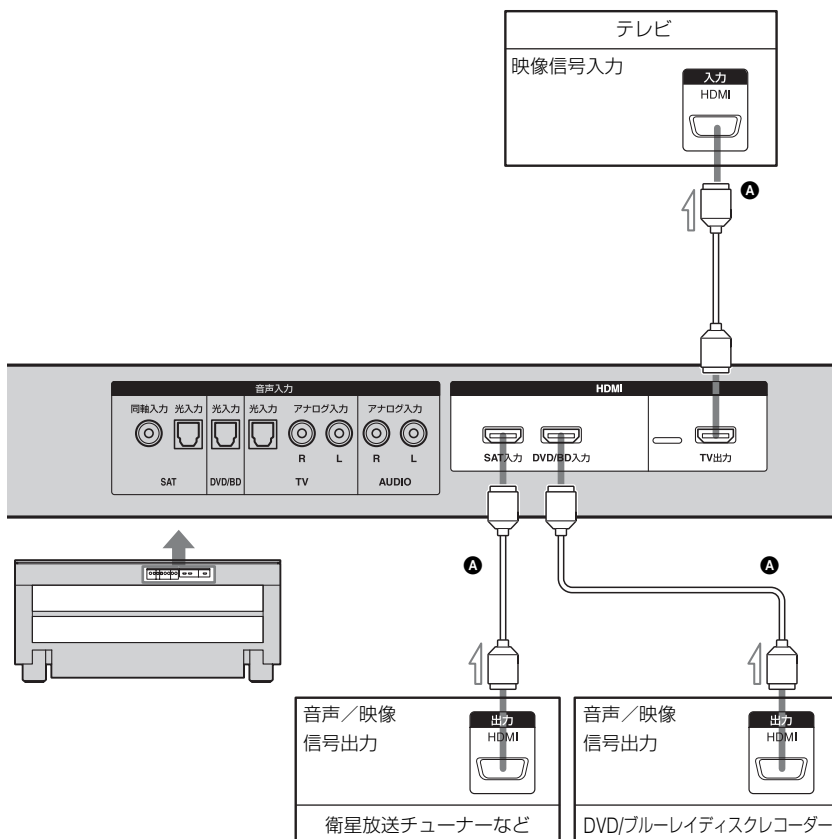
本機を部屋に設置する

スタンドを設置するときは、放熱と充分なサラウンド効果を発揮するために壁から5 cm、左右を30 cm以上離して設置してください。

ご注意

- 角置きの場合も左右30 cm以上、離して設置してください。
- 設置の際に、手を挟まないよう気をつけてください。

テレビ（映像）／DVD／ブルーレイディスクレコーダーをHDMIでつなぐ

HDMIケーブルを使って、他機と接続することをおすすめします。
HDMIを使えば、簡単に高音質、高画質が楽しめます。
テレビの音声は、HDMIだけでは聞くことが出来ません。詳しくは、16ページをご覧ください。

HDMI接続をした時に便利なHDMIコントロールについては、別冊のBRAVIA Linkガイドをご覧ください。
工場出荷時にHDMIコントロール機能は「ON」に設定されています。
すべての機器を接続してから、電源につないでください。

Ⓐ HDMIケーブル（別売）

ご注意

- HDMI未対応の機器をお使いの場合は、16～22ページをご覧ください。
- 機器が同軸入力端子、光入力端子、アナログ（音声）入力端子、HDMI端子に同時に接続された場合、HDMI端子からの信号が優先されます。

HDMI端子の接続について

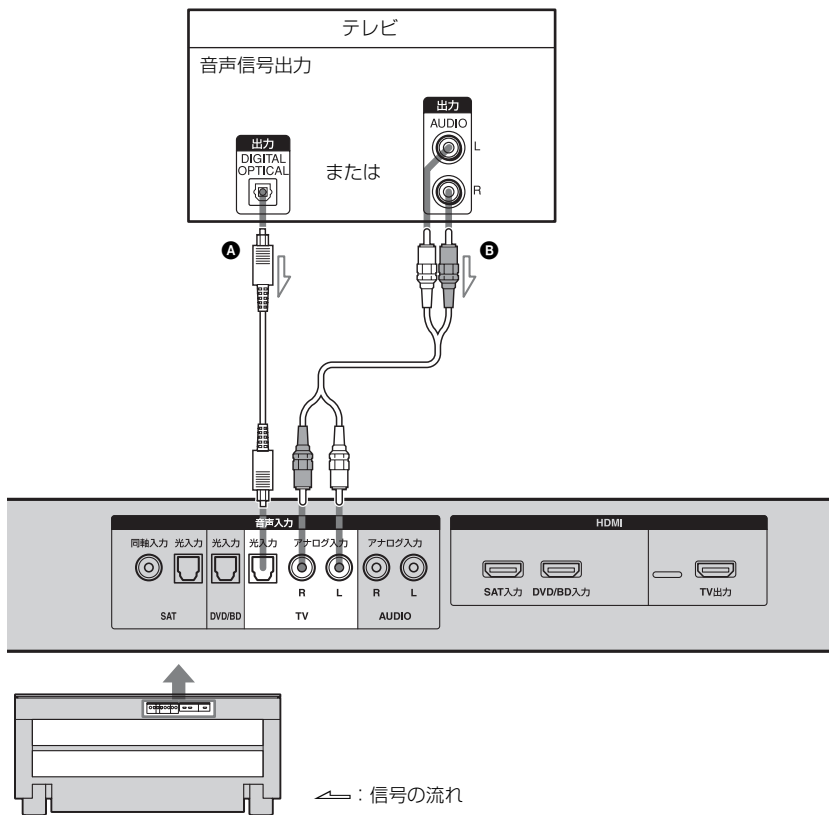
- 高画質をお楽しみいただくためには、HDMIロゴがついたコードが必要です。ソニー製のHDMIケーブルを推奨します。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- 再生機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- 接続機器が著作権保護技術に対応していないために、本機のHDMI出力の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- 本機での入力の選択に関わらず、HDMI TV出力端子からは前回選択されたHDMI入力（DVD/BDまたはSAT）の映像が出力されます。

テレビ（音声）をつなぐ

以下の接続をすれば、テレビ音声が本機で楽しめます。

お使いのテレビに合ったコードを接続してください。

光デジタルコードをつなぐと高音質を楽しむことができます。

すべての機器を接続してから、電源につないでください。

Ⓐ 光デジタルコード（付属）

Ⓑ アナログ音声コード（別売）

ちょっと一言

- リモコンの各入力ボタンを押すだけで、ソニー製テレビのビデオ入力を自動的に切り換えることができます（インプットシンクロ機能）。詳しい操作については、31ページをご覧ください。

ご注意

- 光入力端子とアナログ（音声）入力端子に同時に接続した場合は、光入力端子からの信号が優先されます。

DVD／ブルーレイディスクレコーダーをつなぐ

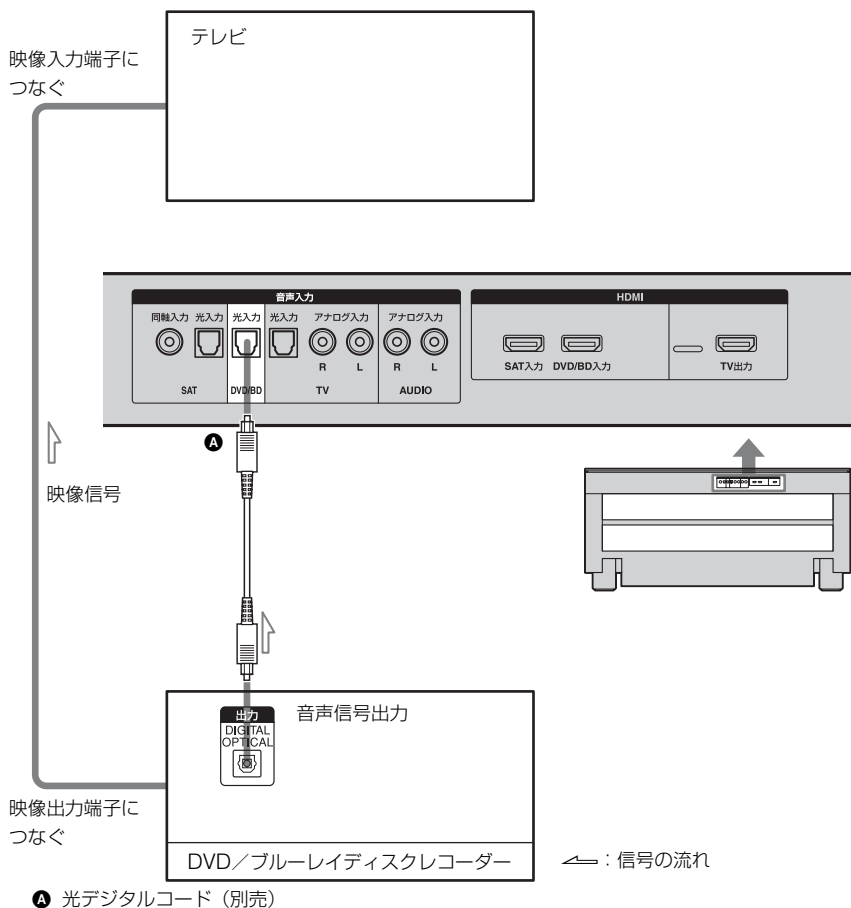
光デジタルコードを使って本機にDVDプレーヤー（レコーダー）／ブルーレイディスクレコーダーをつなぎます。
テレビとの接続は、お使いのテレビに合った映像コードで直接テレビに接続してください。

すべての機器を接続してから、電源につないでください。

A 光デジタルコード（別売）

ご注意

- HDMIケーブルで接続している場合、光デジタルコード（別売）を使った接続は必要ありません。

次のページへつづく

DVDプレーヤー（レコーダー）の設定をする

詳しくはお使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。以下の設定方法はソニー製のDVDプレーヤーの場合です。

1 設定画面で「オーディオ設定」を選ぶ。

2 「オーディオDRC」を「ワイドレンジ」にする。

3 「音声デジタル出力」を「入」にする。

4 「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にする。

5 「DTS」を「入」にする。

ご注意

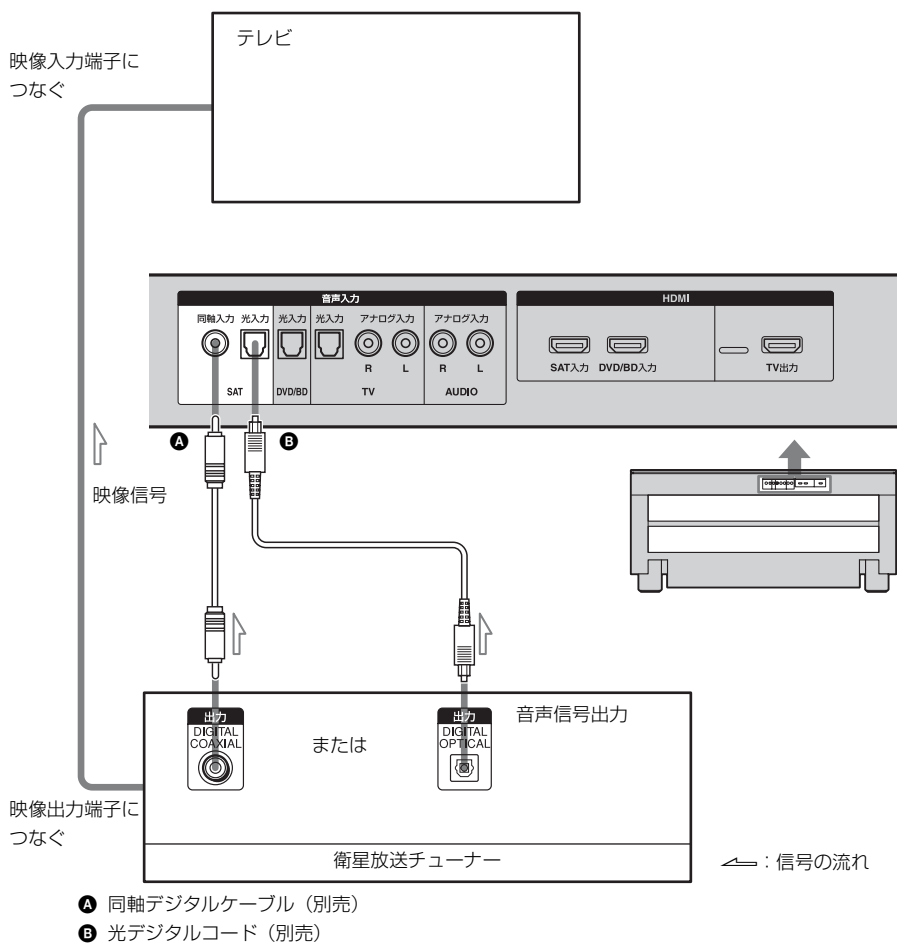
- マルチチャンネルサウンドを聞くためには、再生するディスクの音声フォーマットを設定してください。

衛星放送チューナーをつなぐ

光入力端子を使って本機とつないでください。
衛星放送チューナーに光出力端子がない場合は、アナログ（音声）入力を使って本機とつないでください。
テレビとの接続は、お使いのテレビに合った映像コードで直接テレビに接続してください。

すべてのコードを接続する必要はありません。お使いの機器に合ったコードを接続してください。
すべての機器を接続してから、電源につないでください。

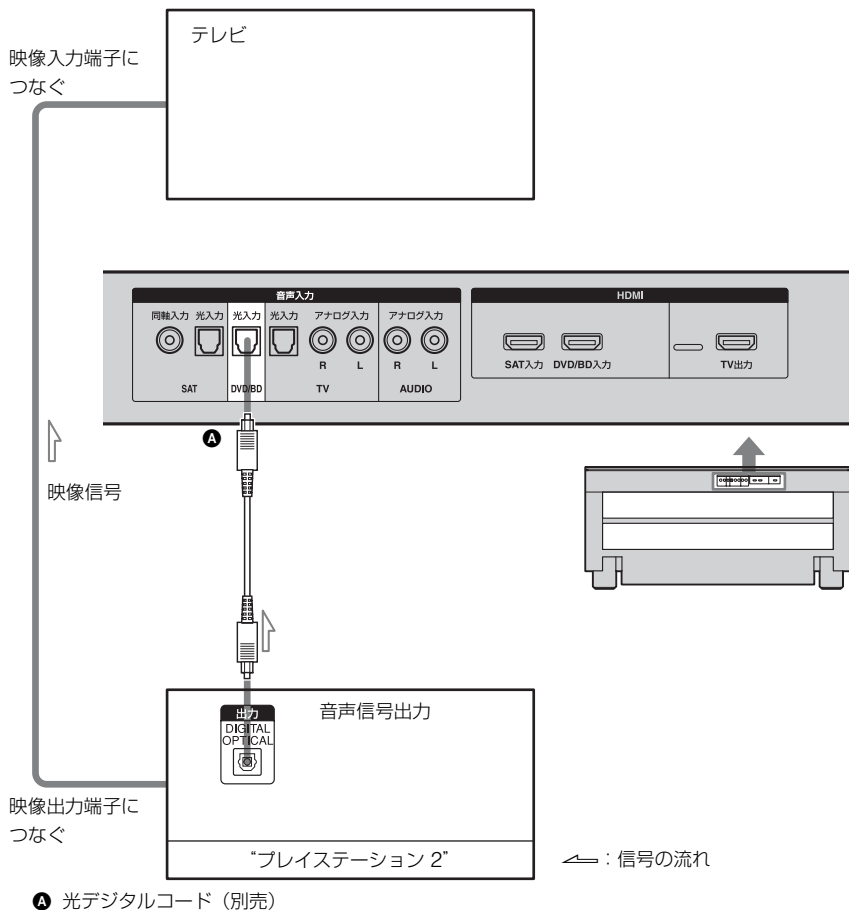
A 同軸デジタルケーブル（別売）
B 光デジタルコード（別売）

ご注意

- HDMIケーブルで接続している場合、光デジタルコード（別売）や同軸デジタルケーブル（別売）を使った接続は必要ありません。

“プレイステーション 2”*をつなぐ

光入力端子を使って本機を“プレイステーション 2”につなぎます。
テレビとの接続は、お使いのテレビに合った映像コードで直接テレビに接続してください。

すべての機器を接続してから、電源につないでください。

* “プレイステーション 2”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

A 光デジタルコード（別売）

ご注意

• “プレイステーション3”をHDMIケーブルで接続している場合、光デジタルコード（別売）を使った接続は必要ありません。

“プレイステーション 2”の設定をする

“プレイステーション 2”に付属の取扱説明書をご覧ください。

1 設定画面で「オーディオ設定」を選ぶ。

2 「音声デジタル出力」を選ぶ。

3 「光デジタル出力」を「入」にする。

4 「ドルビーデジタル」を「入」にする。

5 「DTS」を「入」にする。

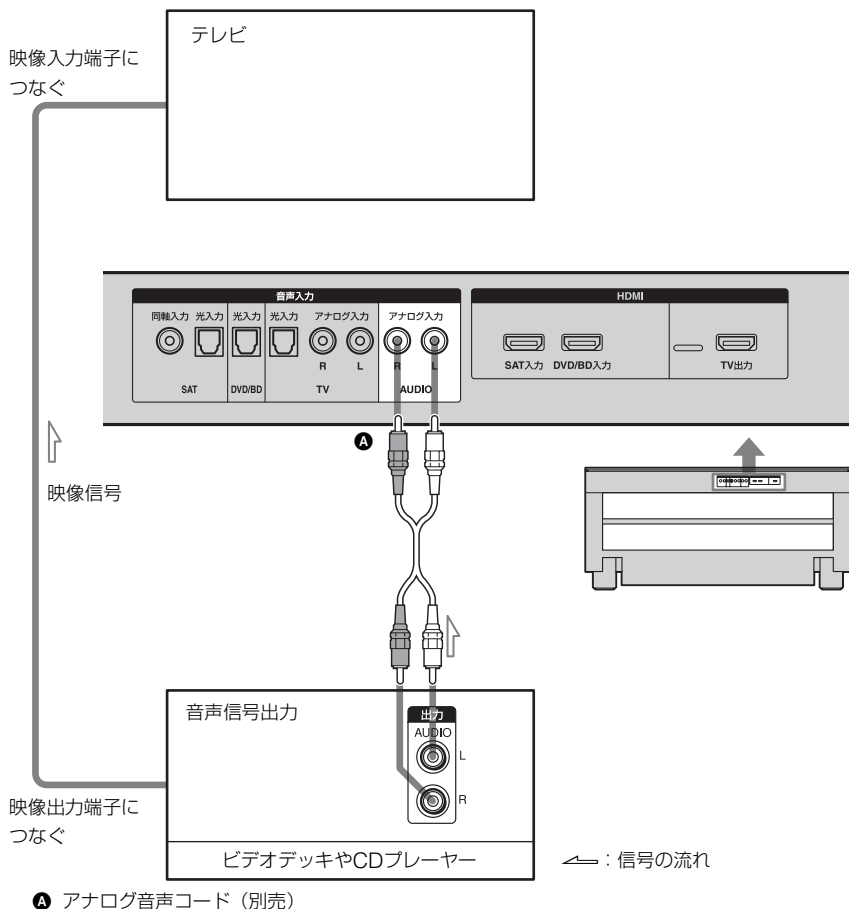
ご注意

- “プレイステーション 3”はHDMIケーブルを使って接続してください。各種設定については“プレイステーション 3”の取扱説明書をご覧ください。

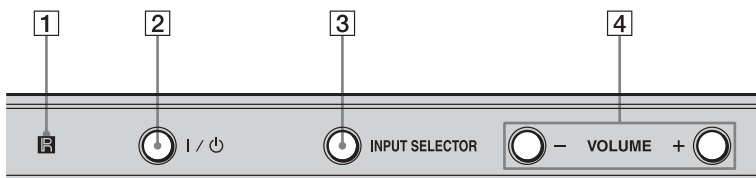
ビデオデッキやオーディオ機器などをつなぐ

アナログ（音声）入力端子を使って本機をビデオデッキやオーディオ機器などにつなぎます。
テレビとの接続は、お使いのテレビに合った映像コードで直接テレビに接続してください。

すべての接続を終えたあと、電源コードをつなぎます。

Ⓐ アナログ音声コード（別売）

各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本機前面

1 リモコン受光部（49）
リモコンからの信号を受信します。

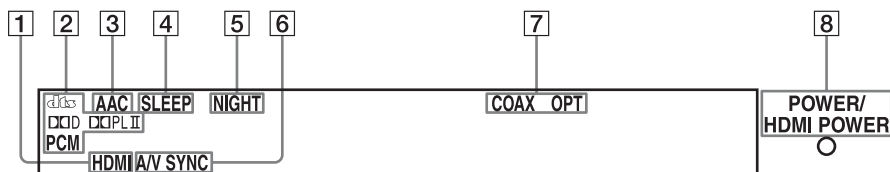
2 I/⏻（電源）ボタン（49）
本機の電源を入／切します。

3 INPUT SELECTOR（入力切換）ボタン（49）
再生する入力ソースを選びます。

4 VOLUME（音量）＋／－ボタン（49）
本機の音量を調節します。

次のページへつづく

本機の表示窓

本機の表示窓のインディケーター

1 HDMI（14）

HDMIケーブルを使っているときに点灯します。

2 **入力した音声信号にあわせて点灯します。**

3 AAC（41）

AAC受信時に点灯します。

4 SLEEP（47）

スリープタイマーを設定したときに点滅します。

5 NIGHT（30）

ナイトモードのときに点灯します。

6 A/V SYNC（43）

「A/V SYNC」が機能しているときに点灯します。

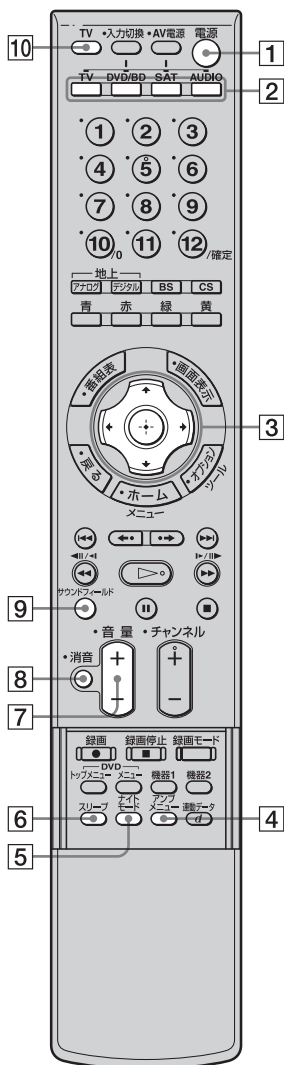
7 COAX/OPT

COAX/OPTで現在使われているコードが点灯します。

8 POWER/HDMI POWERランプ

電源がONのときは、緑に点灯します。
電源がOFFのときは消灯します。
電源がOFFでもHDMI CONTROLがONのときは、オレンジに点灯します（工場出荷時）。

リモコン

ここではアンプ操作に必要なボタンのみ説明しています。つないだ機器の操作に必要なボタンについては36ページをご覧ください。

1 **電源ボタン**

本機の電源を入／切します。

2 **入力ボタン**

本機の入力を切り換えます。また、それぞれのボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）に登録した機器が操作できるようになります。初期設定はソニー製品を操作するように設定されています。詳しくは「他機器の操作をするためのリモコン設定をする」（32ページ）をご覧ください。

3 **↑/↓/←/→、⊕**

設定したいメニューや項目を選び、決定します。

4 **アンプメニューボタン**

本機のメニューを表示します（39ページ）。

5 **ナイトモードボタン**

ナイトモードのオン／オフを切り換えます（30ページ）。

6 **スリープボタン**

スリープタイマーを使って、本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します（47ページ）。

7 **音量＋／－ボタン**

音量の調節をします。

8 **消音ボタン**

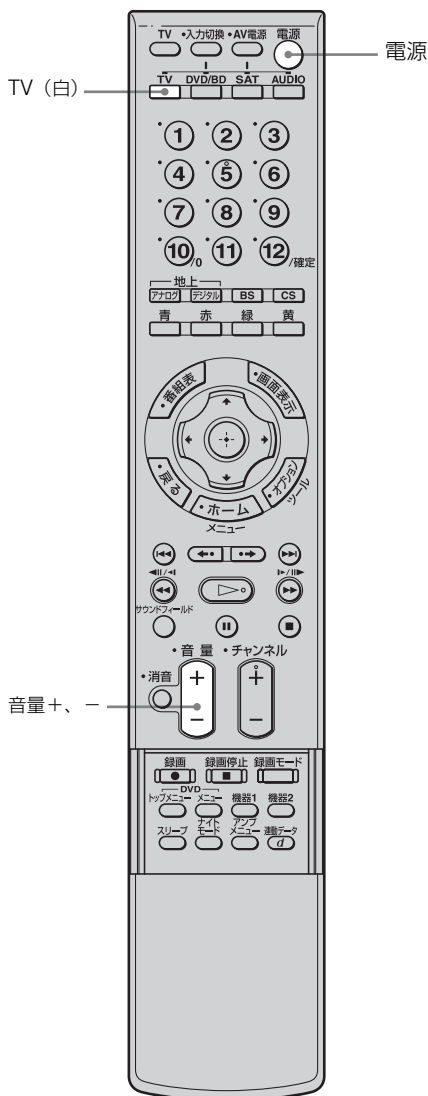
消音します。

9 **サウンドフィールドボタン**

お好みのサウンドフィールドを選びます（29ページ）。

10 **TVボタン（オレンジ）**

オレンジのドット付きボタンでテレビを操作できるようになります。
押して60秒間操作しないと、元に戻ります。

テレビの音声を聞く

1 テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。

詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

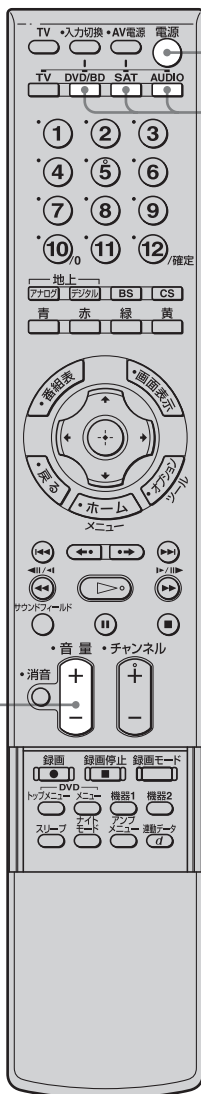
2 本機の電源を入れる。

3 リモコンのTVボタン（白）を押す。

4 本機の音量を調節する。

ちょっと一言

- 5、▷ボタン、チャンネル＋ボタンには凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。
- ソニー製テレビをお持ちの場合、リモコンのテレビボタンを押したあと数字ボタンまたはチャンネル＋／－ボタンを押すと、テレビの入力を切り換えることができます。詳しくは31ページをご覧ください。
- TVボタン（オレンジ）を押すと、60秒間テレビのリモコンとして使えます。
  キャンセルするには、再度TVボタン（オレンジ）を押します。
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

つないだ機器の音声を聞く

衛星放送チューナーの音声を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。
詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

2 衛星放送チューナーと本機の電源を入れる。

3 リモコンのSATボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。
詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

5 本機の音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。
- ソニー製テレビをお持ちの場合、31ページの設定を行うことで自動的にテレビと本機の入力が切り換わります（インプットシンクロ機能）。

次のページへつづく

DVD／ブルーレイディスクレコーダー、“プレイステーション 2”または“プレイステーション 3”でディスクを再生する

1 テレビの電源を入れる。

2 DVD／ブルーレイディスクレコーダー、“プレイステーション 2”または“プレイステーション 3”と本機の電源を入れる。

3 リモコンのDVD/BDボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

5 ディスクを再生する。

ちょっと一言

- 5、▷ボタン、チャンネル＋ボタンには凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。
- ソニー製テレビをお持ちの場合、31ページの設定を行うことで自動的にテレビと本機の入力が切り換わります（インプットシンクロ機能）。

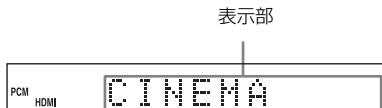
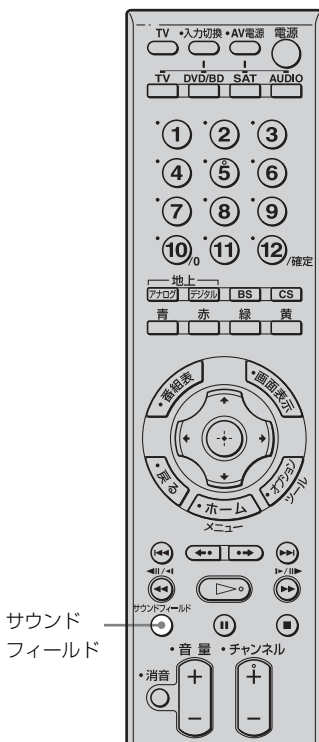
アナログ機器を再生する

ビデオデッキやポータブルオーディオプレーヤーなどの音声をお楽しみください。

1 リモコンのAUDIOボタンを押す。

2 アナログ機器の電源を入れ、再生する。

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

サウンドフィールドを選ぶことで、お好みの音場を楽しむことができます。

サウンドフィールドボタンを押す。

現在選択されているサウンドフィールドが表示されます。

押すたびにサウンドフィールドの表示は下記のように切り換わります。

STANDARD → CINEMA → MUSIC → SPORTS → NEWS

設定したいサウンドフィールドが表示されるまでサウンドフィールドボタンを繰り返し押します。

サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	効果
STANDARD	標準の音声が楽しめます。
CINEMA	低音が強調され迫力のある音と臨場感が楽しめます。
MUSIC	音楽を聞くのに最適なサラウンド効果が楽しめます。
SPORTS	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
NEWS	解説者の声が聞き取りやすいクリアな音声です。

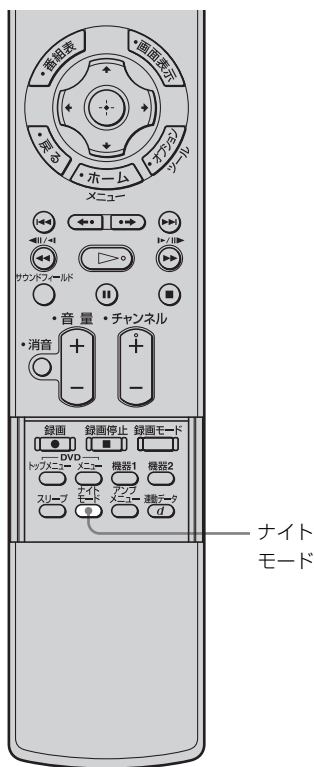
ちょっと一言

- 停電になったり電源コードを抜いても、サウンドフィールドなど、本機に記憶された情報は保持されます。
- マルチチャンネルの音声はどのサウンドフィールドでもサラウンド処理されます。また、「CINEMA」および「SPORTS」ではすべての音声でサラウンド処理されます。

再生

次のページへつづく

小さい音量で楽しむ（ナイトモード）

小さい音量でも音場効果やセリフの明瞭さは失わずに音声を楽しめます。

ナイトモードボタンを押す。

ナイトモードボタンをもう一度押せばOFFになります。

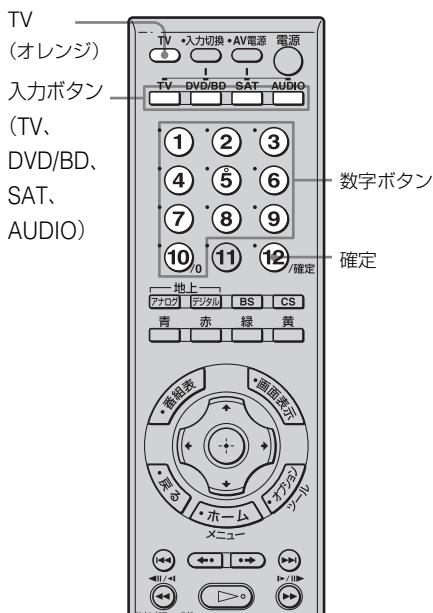
ちょっと一言

- ドルビーデジタルを聞く場合、その音を小さくするのにAUDIO DRC（44ページ）という機能があります。

ソニー製テレビを操作するためのリモコン設定をする

（インプットシンクロ機能）

ソニー製テレビをつないでいる場合、以下のようにリモコン設定をします。
本機の入力ボタンを押すだけで、自動的にテレビの入力を変えることができます。

ご注意
- インプットシンクロ機能を使用しているときは、HDMIコントロール機能は使わないでください。詳しくは付属のBRAVIA Linkガイドをご覧ください。

1 操作したい入力ボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）を押しながら、TVボタン（オレンジ）を押す。

例）：DVDプレーヤーを操作したい場合は、DVD/BDを押します。
選んだボタンが点滅します。

2 テレビ側の入力端子のリモートボタン番号を下の表で確認し、番号を押す。

入力ボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）は数字キーを押すと、点灯します。

テレビ側の入力端子*	押すリモコンボタン（コード）
ビデオ1	21
ビデオ2	22
ビデオ3	23
ビデオ4	24
ビデオ5	25
ビデオ6	26
ビデオ7	27
ビデオ8	28
コンポーネント1	29
コンポーネント2	30
コンポーネント3	31
コンポーネント4	32
HDMI 1	33
HDMI 2	34
HDMI 3	35
HDMI 4	36
HDMI 5	37
内蔵テレビチューナー	38**
設定なし	20（工場出荷時）

* テレビ側の入力端子名は、お使いのテレビモデルによって異なります。
**テレビ番組に切り換えます。

ちょっと一言
- テレビ側へコードを送出しない場合は、「20」を押してください。

次のページへつづく

3 確定ボタンを押す。

手順1で押した入力ボタンが2回点滅し、設定は完了します。

4 他の機器を登録したいときは、手順1から3を繰り返す。

ご注意

- 手順1で押した入力ボタンが5回点滅して消灯した場合はエラーです。手順1からやり直してください。
- 最後に入れた2桁の数字が有効です。

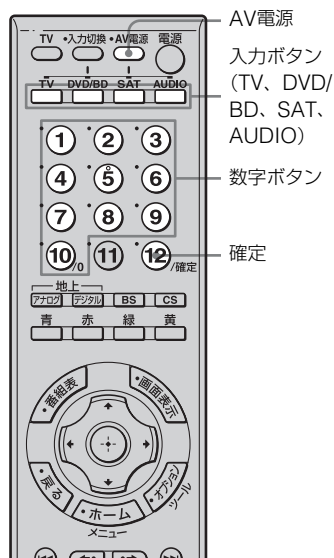
登録をキャンセルするには

選択している入力ボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）を押します。

登録に失敗したときは

- 手順1で押した入力ボタンが点灯しない場合は、電池が消耗しています。新しい電池に交換してください。
- 登録中、60秒以内に次のボタンを押さないと操作が無効になります。手順1からやり直してください。
- 手順3で確定ボタンを押したあと、手順1で押した入力ボタンが5回点滅して消灯した場合はエラーです。手順1からやり直してください。

他機器の操作をするためのリモコン設定をする

登録するメーカーコードを変えることで、他機器をこのリモコンで操作することができます。一度登録すると、次回から設定する必要はありません。操作することができるのは、リモコン信号を受光できる機器に限ります。リモコンのテレビボタンに、テレビ以外の機器を登録することはできません。

1 操作したい入力ボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）を押しながら、AV電源ボタンを押す。

例）：DVDプレーヤーを操作したい場合は、DVD/BDを押します。
選んだボタンが点滅します。

2 登録したい機器のメーカー番号を確認し、リモコンの数字ボタンを押す。

メーカー番号については34～35ページをご覧ください（最初の1桁目は機器の分類を、次の2桁目と3桁目は、それぞれのメーカー番号を表しています）。
コード番号が複数ある場合は、そのうちのひとつを選んで押します。
入力ボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）は数字キーを押すと、点灯します。

3 確定ボタンを押す。

手順1で押した入力ボタンが2回点滅し、設定は完了します。

4 他の機器を登録したいときは、手順1から3を繰り返す。

登録をキャンセルするには

選択している入力ボタンを押します。

登録した機器を使用するには

登録した入力ボタンを押します。

登録に失敗したときは

- 手順1で押した入力ボタンが点灯しない場合は、電池が消耗しています。新しい電池に交換してください。
- 登録中、60秒以内に次のボタンを押さないと操作が無効になります。手順1からやり直してください。
- 手順3で確定ボタンを押したあと、手順1で押した入力ボタンが5回点滅して消灯した場合はエラーです。手順1からやり直してください。

ご注意

- TVボタン（白）には500番台のメーカー番号のみ登録できます。
- 手順1でいくつかの入力ボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）が押されたときは、最後に押されたボタンが有効になります。
- 入力するメーカー番号は、最後に押した3つの数字が優先されます。

リモコンの登録を消去するには

音量－、電源の順に2つのボタンを押しながら、AV電源を押します。
全ての入力ボタン（TV、DVD/BD、SAT、AUDIO）が点灯したあと消えます。

メーカーと機器のコードについて

34～35ページの表の番号を使って、ソニー製品以外の機器を操作できるようにします。また、リモコンがお買い上げ時の状態では操作できないソニー製品を登録することもできます。製造モデルや製造年によって、リモコンの信号が異なる場合があります。登録に失敗したときは、他の番号でやり直してください。
デフォルト値に下線を引いています。

ご注意

- メーカー番号は最新情報に基づいて作成されていますが、お持ちの機器がすべてのメーカー番号に適さないことがあります。
- お持ちの機器によっては、このリモコンで特定の操作ができない場合があります。またこのリモコンで、すべてのボタンが操作できるわけではありません。

初期設定

各入力のデフォルト値は下記の通りです。

入力	メーカー番号
DVD/BD	DVDプレーヤー／ハードディスク／DVDコンボ 403
TV	テレビ 502
SAT	衛星放送チューナー 804
AUDIO	未設定

設定

次のページへつづく

CDプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PIONEER	117
YAMAHA	120、121、122

DATプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	203
PIONEER	219

MDプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	301

カセットテープデッキを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	201、202
DENON	204、205
PIONEER	213、214
YAMAHA	217、218

ビデオデッキを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	701、702、703、704、705、706
HITACHI	722、725、729、741
JVC	726、727、728、736
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TOSHIBA	747、756

DVDプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	401、402、403
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
TOSHIBA	404、421
DENON	405
HITACHI	416
SAMSUNG	416、422

DVDレコーダーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	401、402、403

テレビを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	501、502
DAEWOO	504、505、506、515、544
LG/GOLDSTAR	503、511、512、515、517、544、578
HITACHI	503、513、514、515、517、519、544、557、571
JVC	516、552
MITSUBISHI/MGA	503、519、527、544、566、568
NEC	503、517、520、540、544、554、566
PANASONIC	509、524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557、570、571
PIONEER	509、525、526、540、551、555
SAMSUNG	503、515、517、531、533、544、557、562、563、566、569
SANYO	508、545、546、560、567
SHARP	517、535、550、561、565、577
TOSHIBA	535、540、541、551

衛星放送チューナーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	801、802、803、804、824、825
PANASONIC	818
PHILIPS	874

ケーブルテレビチューナーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	821
PANASONIC	816、832、833、834
PIONEER	828、829

ハードディスクレコーダーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	307、308、309

ブルーレイディスクレコーダーを操作するには

メーカー	メーカー番号
SONY	310、311、312
PANASONIC	331、332、333

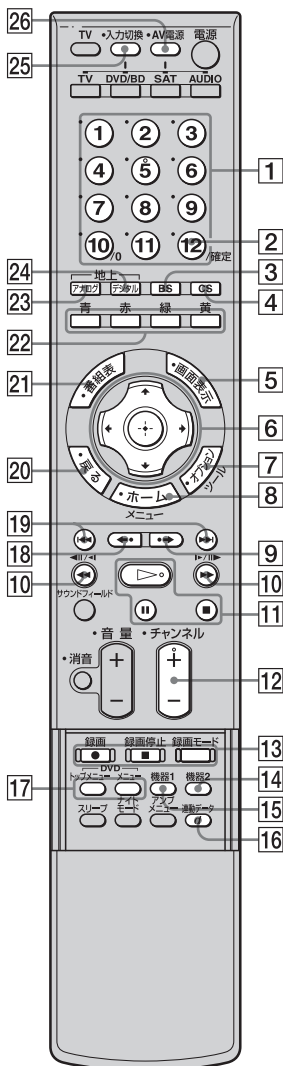
ハードディスク／DVDコンボを操作するには

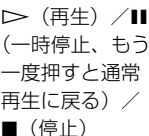
メーカー	メーカー番号
SONY	401、402、403
SHARP	459、460、461
HITACHI	441、442、443
JVC	444、445、446、447、459、460、461
MITSUBISHI	448、449
PANASONIC	450、451、452
PIONEER	453、454、455、456、457、458
TOSHIBA	462、463、464

DVD／ビデオコンボを操作するには

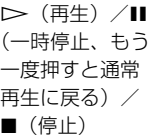
メーカー	メーカー番号
SONY	411

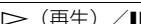
つないだ機器を操作する

操作したい機器の入力ボタンを押すことで、接続した機器を操作できます。

＊ 5、▷ボタン、チャンネル＋ボタンには凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

共通する操作

リモコンボタン	機能
1 数字ボタン	チャンネルやトラックを直接入力します。
2 確定	選択を確定します。
26 AV電源	オーディオやビデオの電源を入れたり、切ったりします。

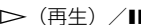
テレビを操作するには

リモコンボタン	機能
1 数字ボタン	チャンネルを選びます。12以上のチャンネル番号を入れるときは、2桁、3桁目をすばやく押します。
3 BS	BSデジタル放送に切り換えます。
4 CS	110度CSデジタル放送に切り換えます（ボタンを押すたびにCS1/CS2に切り換わります）。
5 画面表示	テレビ画面上に情報を表示します。
6 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選択し、⊕で選択した項目を確定します。
7 オプション	そのときできる便利な機能が一覧表示されます。
8 ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
12 チャンネル＋、−	チャンネルを切り換えます。
16 連動データ	地上デジタル放送のテレビ放送内容に連動したデータが楽しめます。
20 戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
21 番組表	地上デジタル放送で番組表を表示します。

リモコンボタン		機能
22	カラーボタン	地上デジタル放送の操作で使います。
23	アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
24	デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
25	入力切換	入力を切り換えます。

DVDレコーダー／ブルーレイディスクレコーダー／ハードディスクレコーダーを操作するには

リモコンボタン		機能
6	←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選択し、⊕で選択した項目を確定します。
8	ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
9	•➡	録画中の番組を見ている時にジャンプで先に送ります。
10	◀◀/▶▶	再生ボタンが押されている時にディスクの早送り／早戻しをします。
11	▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
12	チャンネル＋、－	チャンネルを切り換えます。
13	録画●／録画停止■／録画モード	録画を開始／停止／録画モードの選択をします。
17	DVDトップメニュー DVDメニュー	ディスクメニュー／トップメニューを表示します。
18	⬅•	現在、または録画中の番組を見ている間にジャンプで前に戻ります。
19	▶▶❚	次に再生可能なチャプターにジャンプします。
	❚◀◀	チャプターをスキップします。

リモコンボタン		機能
22	カラーボタン	地上デジタル放送の操作で使います。
23	アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
24	デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
25	入力切換	入力を切り換えます。

DVDプレーヤーを操作するには

リモコンボタン		機能
6	←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選択し、⊕で選択した項目を確定します。
8	ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
9	•➡	ジャンプで先に送ります。
10	◀◀/▶▶	再生ボタンが押されている時にディスクの早送り／早戻しをします。
11	▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17	DVDトップメニュー DVDメニュー	ディスクメニュー／トップメニューを表示します。
18	⬅•	ジャンプで前に戻ります。
19	❚◀◀/▶▶❚	チャプターをスキップします。
25	入力切換	入力を切り換えます。

次のページへつづく

ビデオデッキを操作するには

リモコンボタン	機能
6 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選択し、⊕で選択した項目を確定します。
8 ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
10 ◀◀/▶▶	再生ボタンが押されている時にディスクの早送り／早戻しをします。
11 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
12 チャンネル＋、−	チャンネルを切り換えます。
13 録画●／録画停止■／録画モード	録画を開始／停止／録画モードの選択をします。
25 入力切換	入力を切り換えます。

HDD／DVDコンボを操作するには

リモコンボタン	機能
6 ←、↑、↓、→、⊕	ハイライト（カーソル）を動かし、項目を選びます。
8 ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
9 •➡	ジャンプで先に送ります。
10 ◀◀/▶▶	再生ボタンが押されている時にディスクの早送り／早戻しをします。
11 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
13 録画●／録画停止■／録画モード	録画を開始／停止／録画モードの選択をします。
14 機器2	DVDを選びます。
15 機器1	HDDを選びます。
17 DVDトップメニューDVDメニュー	ディスクメニュー／トップメニューを表示します。
18 ⬅•	リプレイモードに切り換えます。
19 ◀◀◀/▶▶▶	ひとつ前か後のチャプターや曲を指定します。
25 入力切換	入力を切り換えます。

DVD／ビデオコンボを操作するには

リモコンボタン	機能
6 ←、↑、↓、→、⊕	DVDを操作する場合、にハイライト（カーソル）を動かし、項目を選びます。 ビデオデッキを操作する場合、数字ボタンを使ってチャンネルを選んで確定します。
8 ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
10 ◀◀/▶▶	再生ボタンが押されている間にディスクの早送り／早戻しをします。
11 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
12 チャンネル＋、−	チャンネルを切り換えます。
13 録画●／録画停止■／録画モード	録画を開始／停止／録画モードの選択をします。
14 機器2	ビデオを選びます。
15 機器1	DVDを選びます。
19 ◀◀◀/▶▶▶	インデックスを探します。
25 入力切換	入力を切り換えます。

衛星放送チューナーを操作するには

リモコンボタン	機能
6 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選択し、⊕で選択した項目を確定します。
8 ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
12 チャンネル＋、－	チャンネルを切り換えます。
21 番組表	地上デジタル放送で番組表を表示します。

ケーブルテレビチューナーを操作するには

リモコンボタン	機能
12 チャンネル＋、－	チャンネルを切り換えます。

オーディオ機器を操作するには

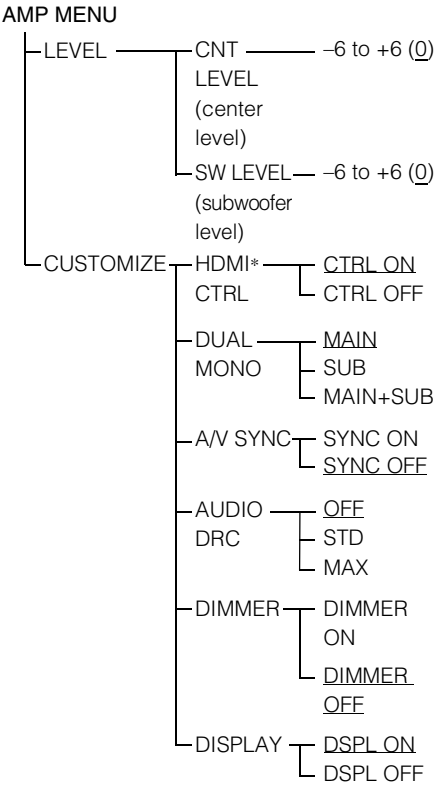
リモコンボタン	機能
10 ◀◀/▶▶	再生ボタンが押されている間にディスクの早送り／早戻しをします。
11 ▷（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
19 ❙◀◀/▶▶❙	曲をスキップします。

ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。接続している機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする可能性があります。

アンプメニューの設定をする

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

＊ 詳しくは、付属のBRAVIA Linkガイドをご覧ください。

1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面を表示させる。

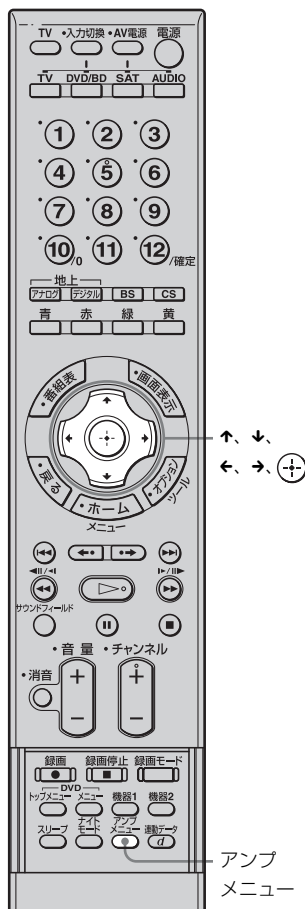
次のページへつづく

2　↑/↓/←/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3　アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

これからのページはアンプメニューの各設定について説明します。

スピーカーレベルを設定する

ここではセンタースピーカーとサブウーファーのレベル設定を行います。

1　DVDなどのマルチチャンネルサラウンド効果が記録されたメディアを再生する。

2　アンプメニューボタンを押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して「CNT LEVEL（センタースピーカーのレベル）」か「SW LEVEL（サブウーファーのレベル）」を表示させる。

5 ⊕または→を押す。

6 スピーカーの音を聞きながら、↑/↓を繰り返し押してお好みの設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定：0（dB）
−6（dB）～+6（dB）の範囲で1（dB）ごとに設定できます。

7 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

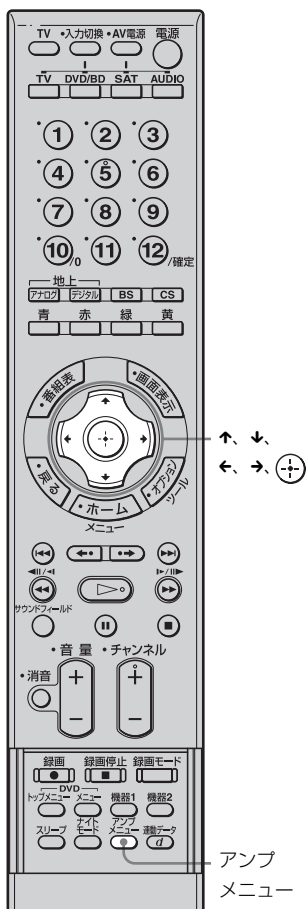
AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。

次のページへつづく

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「CUSTOMIZE」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「DUAL MONO」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。
- 「MAIN＋SUB」（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

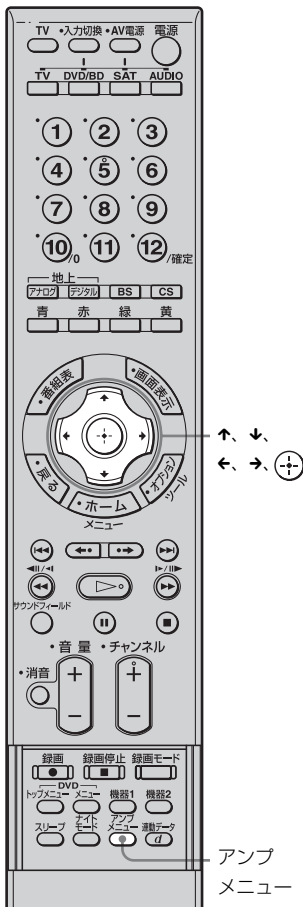
5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「CUSTOMIZE」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「A/V SYNC」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「SYNC OFF」：A/V SYNC機能を使わない。
- 「SYNC ON」：A/V SYNC機能を使って、音声と映像のずれを調節する。

5 アンプメニューボタンを押す。

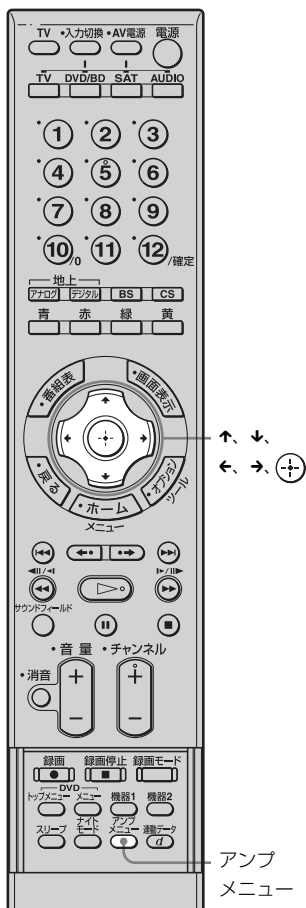
アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- この機能を使っても、完全に映像と合わせることができない場合もあります。
- この機能は同軸入力、光入力およびHDMI入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

次のページへつづく

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルのソースにのみ対応しています。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「CUSTOMIZE」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「AUDIO DRC」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「OFF」：信号の幅は圧縮されません。
- 「STD」：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- 「MAX」：信号の幅を最大限に圧縮します。

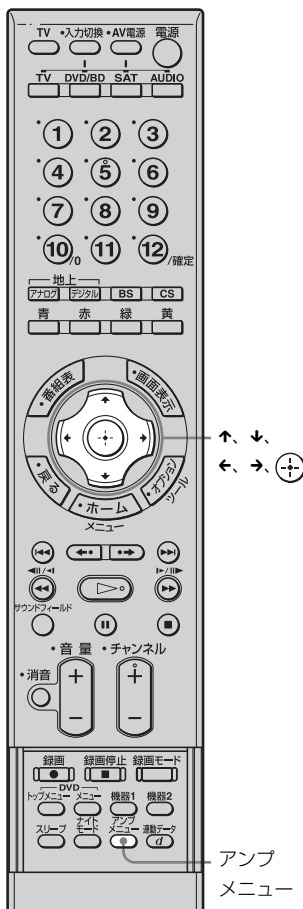
5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

本体表示の明るさを調節する（DIMMER）

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「CUSTOMIZE」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「DIMMER」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、表示窓の明るさを選ぶ。**

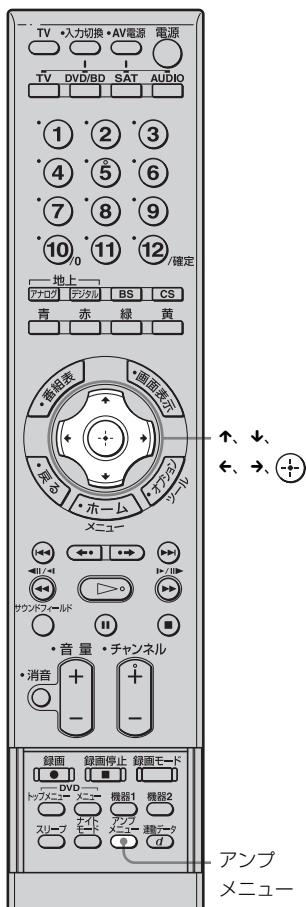
- 「DIMMER OFF」：通常状態。
- 「DIMMER ON」：表示窓の明るさは暗くなる。本機の電源を切ると、表示窓は暗くなります。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

次のページへつづく

表示窓の設定を変える（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「CUSTOMIZE」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「DISPLAY」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、表示窓の設定を選ぶ。

- 「DSPL ON」：常時、表示管を点灯します。
- 「DSPL OFF」：一定時間、表示管に表示がでます。

ご注意

- 「DSPL OFF」に設定されていても、ミュート機能が有効になっているときやPROTECT状態のときは、表示管は常時点灯します。

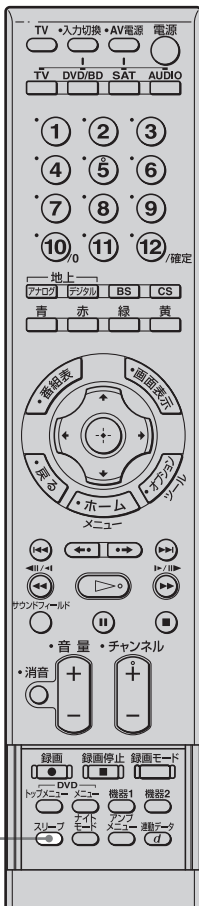
5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。

スリープボタンを押す。

スリープボタンを押すごとに、以下のように設定時間が変わります。

SLEEP 90M → SLEEP 80M → SLEEP 70M
↑ ↓
SLEEP OFF ← SLEEP 10M .....SLEEP 60M

設定時間を確認する

スリープボタンを一度押します。

設定時間を変える

スリープボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更します。

スリープタイマー機能を解除する

スリープボタンを繰り返し押して、表示窓に「SLEEP OFF」を表示させせます。

ご注意

- スリープタイマーは本機にだけ適用されます。本機に接続しているテレビや他の機器には使えません。

その他

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全般

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本体の表示窓に「PROTECTOR」や「PUSH POWER」が表示される。

→「STANDBY」が表示されたら、本機の通気孔がふさがっていないか点検する。
「STANDBY」点滅が消えた後、もう一度本機の電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ DVDがDolby DigitalやDTSフォーマットで録音されているか確認する。

→ DVDプレーヤーなど、本機のデジタル入力端子に接続されている機器のオーディオ設定を確認する。

→ DVDプレーヤーの設定が正しいか確認する（DVDのメニュー画面からサウンドを確認します）。

サラウンド効果が得られない

→ 左右を30 cm以上あける（13ページ）。

→ デジタル音声信号によっては、サラウンド処理（29ページ）が働かないことがある。

テレビの音声が映像より遅れる

→「A/V SYNC」がオンに設定されていたら、「A/V SYNC」をオフに設定する。

接続した機器

接続したどの機器を選んでも音が出ない、または音が小さい

→ スピーカーとそれぞれの機器が正しく接続されているか確認する。

→ 本機と接続した機器の電源がオンになっているか確認する。

→ 音量が最小になっていないか確認する。

→ 消音機能を解除するために消音ボタンを押す。

選択した機器から音が出ない

→ 接続している機器が、正しくオーディオ端子につながれているか確認する。

→ 接続している機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

→ 接続している機器が正しく選択されているか確認する。

→ 一時停止した状態から再生したときなどに、音量が最大のまま再生しようとすると、音が出なくなる。その場合は、音量を下げてから電源を入れなおす。

音が途切れたり、ノイズが出る。

→ 本機で対応するデジタル入力フォーマットで音源を確認してください（51ページ）。

テレビ画面に映像が出ない、または映像が不鮮明

→ テレビと本機が正しく接続されているか確認する。

→ 本機でテレビが正しく選択されているか確認する。

→ テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。

→ 接続している機器が、正しくビデオ端子につながれているか確認する。

→ 接続している機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

HDMI CONTROL

別冊のBRAVIA Linkガイドをご覧ください。

その他

リモコンが機能しない

→ 本機の🅁受光部に向けて操作する。

→ リモコンと本機との間に障害物を置かない。

→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。

→ リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

付属のリモコンで操作しても、テレビの入力が切り換わらない

→ ソニー製のテレビのみ、本機のリモコンで入力を切り換えることができる。

→ リモコンの設定を変更する（31ページ）。

これらの処置をしても正常に動作しないときは―リセット

スタンド側のボタンを下記の手順で操作します。

1 I/⏻（電源）を押して電源を入れる。

2 本機のINPUT SELECTOR、VOLUME ー、I/⏻（電源）を同時に押す。

表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

次のページへつづく

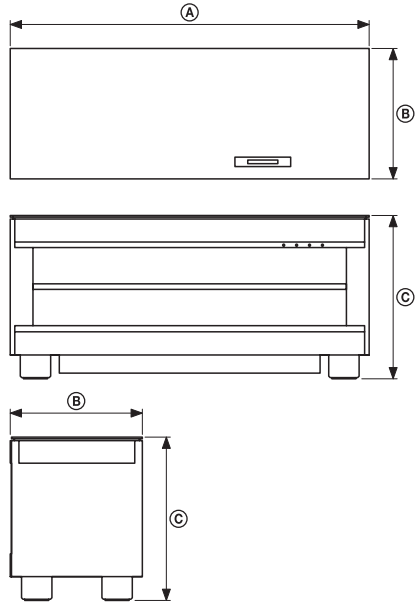
部品の保有期間について

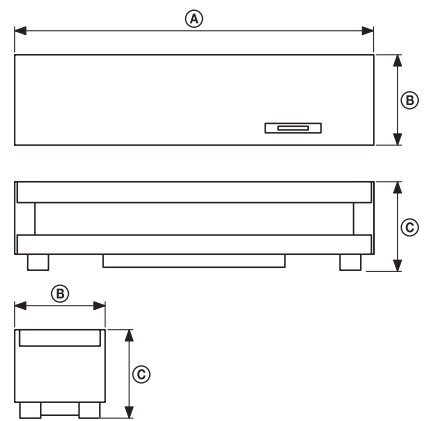
当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：RHT-G800
RHT-G1200
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

RHT-G800

最大外形寸法：mm	Ⓐ	1,115
	Ⓑ	400
	Ⓒ	495
質量：kg		59

RHT-G1200

最大外形寸法：mm	Ⓐ	1,550
	Ⓑ	400
	Ⓒ	400
質量：kg		63

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
MPEG2-AAC	○
リニアPCM（2ch）＊	○
リニアPCM（5.1ch、7.1ch）＊（HDMIのみ）	○
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

＊ リニアPCMは、48 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

実用最大出力
フロント部：70 W/CH
（6 Ω、JEITA＊）
センター部＊＊：70 W
（3 Ω、JEITA＊）
サラウンド部＊＊：70 W/CH
（6 Ω、JEITA＊）
サブウーファー部：120 W
（3 Ω、JEITA＊）

＊ JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

＊＊サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

入力端子（アナログ）
TV、AUDIO　入力感度：600 mV
インピーダンス：33 kΩ

入力端子（デジタル）
TV、DVD/BD　光
SAT　同軸、光

HDMI部

コネクター　19ピンHDMI標準コネクター
ビデオ入出力　SAT、DVD/BD：480p/576p/720p/1080i/1080p
オーディオ入力　SAT、DVD/BD入力：リニアPCM7.1ch/Dolby digital/DTS/AAC

スピーカー部

フロント

スピーカーシステム
　　2ウェイバスレフ型、防磁型
スピーカーユニット
　　ウーファー（低音用）4×7 cmコーン型（1）
　　トゥイーター（高音用）2.5 cmバランスドーム型（1）

センター

スピーカーシステム
　　バスレフ型、防磁型
スピーカーユニット
　　4×7 cmコーン型（2）

サラウンド

スピーカーシステム
　　バスレフ型、防磁型
スピーカーユニット
　　4×7 cmコーン型（2）

サブウーファー

スピーカーシステム
　　バスレフ型、防磁型
スピーカーユニット
　　10 cmコーン型（2）

本体

電源　AC 100 V、50/60 Hz
消費電力　電気用品安全法による表示：110 W
　　HDMIコントロール設定 「ON」のとき（工場出荷時）：1.5 W以上
　　HDMIコントロール設定 「OFF」のとき（スタンバイ状態のとき）：0.3 W

RHT-G800
最大外形寸法（幅／高さ／奥行き）
　　1,115×495×403 mm（端子接続時）
質量　59.0 kg

RHT-G1200
最大外形寸法（幅／高さ／奥行き）
　　1,550×400×403 mm（端子接続時）
質量　63.0 kg

付属品

光デジタルコード（1 m×1）
リモコン（1）
乾電池（2）
ガラス天板（1）（RHT-G800のみ）
棚板（1）（RHT-G800のみ）
棚板取り付け用ピン（4）（RHT-G800のみ）
コーナープロテクター（4）（RHT-G800のみ）
取扱説明書（1）
BRAVIA Linkガイド（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力　0.3W
- プリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- フルデジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85％以上に改善。
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません。

用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS

DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できる。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応している。

PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しむことができる。

S-Force PRO Front Surround

ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができる。

S-Master

ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特長を備えている。

索引

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。
http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口
フリーダイヤル
‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話･PHS･一部のIP電話
‥‥‥‥‥0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル
‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話･PHS･一部のIP電話
‥‥‥‥‥‥0466-31-2531
※取扱説明書･リモコン等の購入相談は
こちらへお問い合わせください。

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389
受付時間 月～金:9:00～20:00　土･日･祝日:9:00～17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in Malaysia

* 3 0 9 3 2 2 7 0 8 * (1)